

令和3年度第1回 福知山市立図書館協議会 議事録（要旨）

開催日時：令和3年6月25日17時00分～18時40分

開催場所：福知山市立図書館中央館 研修室

出席委員：神谷委員長、仲野副委員長、由良委員、足立委員、安川委員、善積委員、木村委員、
芦田委員、西村委員

欠席委員：山路委員、正木委員

事務局：山路館長、大槻次長、四方次長、塩谷係長

傍聴者：なし

- 議題：（1）令和2年度図書館事業報告について
（2）令和3年度図書館事業方針及び予算について
（3）「第3次福知山市子どもの読書活動推進計画」について
（4）その他

<任命状の公布>

<教育長挨拶：端野教育長>

<委員長あいさ>

<委員自己紹介>

<事務局自己紹介>

<前回議事録の承認>

協議事項

1 令和2年度図書館事業報告について

～資料「令和2年度図書館事業報告」に基づき、事務局から説明～

内容：図書館中央館の運営状況、資料等の整備状況、新たなサービスやイベント等の展開状況

委員：前年度、平常に開いていた時の開館日数は何日でしたか。

事務局：令和元年度は、3月に臨時休館をした関係で286日、その前の通常で開館をしていました
平成30年度で中央館が303日です。

委員：303日の開館日数で、1日の貸出し冊数はいくらでしたか。

事務局：平成30年度は1,724冊、令和元年度は1,681冊でした。

委員：思ったのですが、開館の日数が減っている割には、貸出し冊数は結構な冊数があり、色々な方策を取り貸しだしており、宅配サービスとかの効果があるのではないかと。

事務局：ありがとうございます。ただ、カウンターに座っていますと、特に土日なんかは、お客様の数が少なくなったと感じています。

委員：ただ、こちらから持っていかれている分もあり、1日当たりの冊数でみるとそんなにダメージがないように感じます。貸出しセットは非常によかったのではないかと思います。

事務局：今は特に公民館に利用いただいております、逆に学校や放課後児童クラブについては利用いただけていない状況があり、今後はそちらにも力を入れていかなければならないと思っています。

委員：資料等の整備の項目で一般書と児童書の内訳がありますが、これまであまり気にしていなかったのですが、ありがたいこと児童書が100冊ほど多いのですが、毎年このような内訳とされていますのでしょうか。

事務局：令和元年度ベースでは、一般書が6,900冊、児童書が4,300冊程度であり、児童書の購入はそんなに変わっていませんが、一般書の購入が減少しているということです。

委員：内訳の基準みたいなものがあるのですか。

事務局：児童書でしたら毎年の課題図書であるとか、夏休みのオススメ本などの活動については、縮小せずに継続しているため、児童書の購入については平行線なのですが、その分子算の関係上、一般書の購入が少なくなっている状況にあります。

委員：毎年児童書については、これくらいの冊数を購入しておられるということですか。

事務局：佐藤八重子基金を活用し、計画に基づき児童書を購入しておりますので、基本的には同程度の購入となっております。

2 令和3年度図書館事業方針及び予算について

～資料「令和3年度図書館事業方針及び予算について」に基づき、事務局から説明～

内容：令和3年度社会教育の重点のうち「図書館活動の推進」について、バリアフリー資料の整備と活用促進について、図書館システム機器等の更新事業等について、(仮称)福知山市電子図書館サービスの導入検討について、令和3年度図書館予算について

委員：システム更新ですが、どこまで替えて、今後どれぐらいの規模で考えているのか。

事務局：今年度については、約660万円予算を計上しており、具体的には、インターネットに接続する際、ウイルス等から図書館システムを守るファイアウォール機器の更新を中央館と各分館の4館で実施します。あとICアンテナという自動貸し出しで本を読み取るシステム等があるのですが、新館オープン時からかなりの年数が経ち、計画的に更新していく必要があります。

委員：今後は、本体のシステムも更新される予定ですか。

事務局：今後の計画としては、図書館の入り口に設置してある、本を貸出機に通さないで持ち出すと音が鳴って知らせる IC ゲートの更新、その後は、図書館システムのそれぞれのパソコンがオープン当時から設置してあるものであり、更新が必要となります。

委員：全体のシステムのソフトは、クラウド型になっていたのでしょうか。

事務局：クラウド型のシステムについては、現状のままで考えています。

委員：金銭的には、同じぐらいか。

事務局：あくまで、予定と現段階での積算ですが、IC ゲートが 3,000 万円、各パソコンの更新が 2,000 万円程度を見込んでいます。

委員：電子図書館サービスの導入についてですが、これは大きな改革なのであると思うのですが、時代の流れの中で、記載にあるとおり、多様な選択肢と利便性の向上を確保することであるとは思いますが、図書館といえば本の香りと紙の質を楽しみながらというイメージを持っています。まだ、イメージができていないのですが利便性と多様な選択肢の他に例えば前と違うことがどのようなことがあるのか、新しい流れに図書館がなろうとしており、大きな変化の時なのであるかと受け止めたのですが、どのような変化になるのでしょうか。

事務局：委員の言われるとおり、一番上の事業方針のところで「交流や憩いの場としての居場所となる図書館を目指します。」とあるなかで、電子図書館となると非来館型、交流であるとか、憩いの場としての図書館ではなく、あくまでも情報提供としての図書館、今あるサービスに追加するイメージで、どちらかではなく、どちらも選べるという、いろいろな事情や、コロナ禍の状況のなかで、図書館に来たくとも来られない方に、今あるサービスにプラスして選択肢を増やすことで、少しでも本を、情報を身近に手に入れて頂ける手段を提供するというのが、電子図書館の貸出サービスになります。今まで目指していたところとは、まったく違うアプローチの仕方です。本に接していただくことにはなりますが、時代の流れでそういったサービスも必要であるということで、福知山市がスマートシティーを目指していることもあり、図書館にこなくとも 24 時間 365 日情報に接することができるサービスの提供ということで、全く違う方面からのアプローチであり、今あるサービスを継続しつつ、新たな非来館型のサービスを導入することで、いわゆるハイブリットといわれる図書館を目指していきたいということで、今年度の重点事業にあげさせていただいております。

委員：ちなみにこれは機械を入れて、機械がサービスを行なうということで、職員が今以上に忙しくなるということは少ないのですか。

事務局：確かに貸出しなどのサービスをカウンターですることにはないですが、選書については職員が責任を持って行いますので、そういう意味ではそれなりに業務は増えることとなります。

委員：レファレンス業務を機械が対応するということですか。

事務局：レファレンスも対面でのサービスと、こういう状況であり、電話でも受けていますが、人を介してというより、自分で必要な情報を取りにいていただくことになると思いますが、当然そこへ到るまでの所でのレファレンスは必要になってきます。

委員：貸出しは図書館が管理して、ファイルを受け取る形になるのか。

事務局：クラウド上にある電子図書館サービスにアクセスしていただき、そこでファイルを見ていただくこととなります。

委員：それは、限定されている期間しか見られないということですか。

事務局：そのとおりです。

委員：図書館にある本や資料の一部が、WEBで自宅などからアクセスすれば見られたり、読めたりするイメージでよいのか。

事務局：電子書籍というものが、タブレットやスマートフォンなどで売買されていますが、その電子書籍のライセンスを図書館が購入し、クラウド上でそれにアクセスしていただき、借りて読んでいただく形になります。

委員：図書館に来て、本を借りるのと同じような形で、自宅でライセンスを借りて利用する形ということか。

事務局：そのとおりです。福知山市図書館のHPから福知山市図書館電子サービスというように所にアクセスしていただくと、図書館がライセンス契約をした図書が表示される形です。

委員：例えば、当然、その権利を福知山市図書館が購入し、貸出しをされることになると思うが、それには費用がかかってくるが、WEBにすれば利用する側は便利になるが、図書館としては、逆に仕入れというかコストが増えていくということで、電子書籍のコンテンツがどれだけ増やせるかというのは、予算の範囲でやっていくということですか。

事務局：導入時については、臨時的経費として現在の予算の枠組みの外で要求していくことになると思いますが、それが、5年・10年後ということになれば、それがどうなっているかという、そもそも電子書籍自体が近年出てきたものであり、今後、電子書籍・電子図書館とういものがどのように発展していくのか読めない部分が多くあります。電子書籍になってライセンスが購入できるものについても売れ筋でないものが多く、やはり今は紙ベースが主流であり、将来的には電子書籍も増えていくであろうと思われ、先行投資的な意味合いもあります。

委員：はじめは、そんなにコンテンツはつくれないということですね。お金もかかるわけですし。

事務局：実際、電子コンテンツ化されているものも、紙ベースからいえば、かなり少ない部分もあります。

委員：ただ紙の管理の手間と装備を考えると、その辺は安くなるのではないですか。装備が1冊200円くらいかかっていませんか。

事務局：1冊160円程度になっています。

委員：実際一般的な電子書籍も紙代分ぐらいは販売価格が安いのですが、図書館用はそんな

なわけではないのですか。

事務局：現状で言えば、紙ベースよりも高額となっています。

委員：ただ、本であれば一人に貸せば在庫が無くなる訳ですが、これであれば、10人が同時に読むことができる訳ですか。

事務局：いいえ。1ライセンスにつき1人になります。1人が借りればアクセスができなくなります。

委員：そういう部分の利便性が良くなる訳ではないのですね。

事務局：ただ、紙の書籍の場合、返しに来られなければ回収ができませんが、期限がくれば強制的に戻ってきますので、延滞処理はなくなるメリットはあります。

委員：電子書籍で、児童図書も電子書籍の部分が入ってくるのかとドキッとしましたが、やはり子どもに渡す本は電子ではなく、紙でという思いが。いろいろな意味で、子どもの発達に関してとかの部分で図書館であるからこそ、このサービスが入ってくることにより、また考えて頂くことがある意味増えるのだと思いますのでよろしくお願ひしたい。

委員：なかなか子どもの本というのは電子書籍に馴染みにくいと思います。特に大型本の様な本は、物が無いとどうしようもないですし。

3 「第3次福知山市子どもの読書活動推進計画」の策定について

委員：ほかにこれに関してご意見が無いようでしたら、次の議題である「第3次福知山市子どもの読書活動推進計画」についてです。

事務局：資料はございませんが、「第3次福知山市子どもの読書活動推進計画」とそれに基づく今年度の事業方針について説明をさせていただきます。「第3次福知山市子どもの読書活動推進計画」は、「子どもが本と出会い、読書の楽しさを体験する機会をを広げ、読書をとおして学ぶ力・考える力・判断する力を伸ばし、子どもと本をつなぐ、人と場を育む取組を進める」ことにより子どもの読書活動の推進を図ることを基本方針として令和3年2月に策定しました。計画期間は令和3年度から7年度までの5年間で、その間に子どもを取り巻く施設や大人が互いに連携して子どもに本を届ける取組を進めていきたいと考えております。

令和3年度に図書館が重点的に進める取組みとして4点について簡単に説明をさせていただきます。

まず、1点目として「暮らしに読書を、応援貸出セット」の活用促進。こちらは、先ほどから何度もでてきておりますが、今年1月にサービスを開始しました「暮らしに読書を、応援貸出セット」を活用していただくため、関係機関に働きかけます。来月から夏休みが始まることもあり、放課後児童クラブや保育園など休みにならない所に、貸出しをして頂ける場所に働きかけていきたいと考えております。

それから、2点目として、「出張おはなし会」を保育園、幼稚園、こども園等に拡充

して実施していきたいと考えております。従来は児童館や子育て支援センターを中心に実施してきましたが、幼稚園や保育園、こども園等も対象としたいと考えております。現在は、緊急事態宣言が明けたばかりで、まだ予断を許さない状況も続いておりますので、積極的に呼びかけることは非常に難しい状況にはありますが、コロナの状況も見ながらPRをしていきたいと考えております。

3点目としましては、障害者手帳や療育手帳を持つ子どもへの「宅配貸出サービス」の利用促進です。昨年12月にスタートしました「宅配貸出サービス」はもちろん子どもでも利用が可能です。京都府の中丹支援学校などとも連携し、活用につなげていけるよう取組んでいきたいと考えております。

最後の4点目ですが、ブックスタートを補完する取組みとして「ブックスタート読み聞かせ体験」を開始しました。福知山市では、平成15年からブックスタート事業を開始しまして、ボランティアさんと連携し取組んできたのですが、今年の3月以降、4か月健診時の個別の読みきかせが休止している状況にあります。この春、ボランティアさんからこんな時でもできる取組みはないかとお声掛けをいただき、企画したのがブックスタート読みきかせ体験です。これは、図書館の研修室で透明なアクリルのパーテーションを用意し、パーテーション越しにボランティアさんと子ども及び保護者に読みきかせを体験していただく取組みで、当初は4月の開始を予定しておりましたが、市内の感染状況や図書館の臨時休館もあり、先日6月10日に初めてスタートし、22日に2回目を実施し、1度に3組、3回交代制で、1日最大9組を受入れさせていただきます。1回目が6組、2回目が8組申込みをいただき、おひさまと風の子サロンでもPRをしていただいたおかげで利用、予約も増えてきている状況です。こういう時であるからこそ、取組めるサービスであり、4か月健診での個別読みきかせ、全ての子どもに本を手渡し、その場で読みきかせを体験してもらうのが、本来のブックスタートであり、現在の取組みは緊急的な取組みではありますが、本来の活動が再開できるまでは、ボランティアの皆さまにもご協力いただけると言っていたいておりますので、このまま続けていきたいと考えております。

以上で説明を終わります。

委員：今の件に関してご意見ご質問のある方お願いします。

計画にしたがって、順調に進みだしたということで、コロナ禍は大変ですが、その対応の方法も取り組まれているようですのでよかったですと思います。

4 その他

意見交換

5 閉会挨拶：副委員長